

慶応義塾大学経済学部
日吉キャンパス

第2回（4月20日）
マクロ経済学初級Ⅰ

木曜日第1時限
担当者 白井義昌

今学期の講義：全体像

- 経済とは何か？
 - 市場経済とみえざる手
 - 市場の失敗
 - さまざまな資源配分メカニズム

ミクロ経済学
- 好況と不況または恐慌
 - 経済成長と技術進歩
 - 政府の対策（マクロ経済政策）

マクロ経済学
- 経済学者の考察方法
 - モデルを使って考える（理論分析）
 - 実際の経済と照らし合わせる（実証分析）
 - データ分析
 - モデルのテスト
 - 実験（社会実験、実験室実験）

講義計画 1 / 4

- 第2週：資源配分問題
 - 資源制約・資源配分
 - 機会費用
 - 意思決定
 - 限界原理
- 第3週：経済モデル
トレードオフと取引を考える
 - 生産フロンティアと機会費用
 - 比較優位の原理
- 第4週：市場取引
 - 競争的市場
 - 需要曲線
 - 供給曲線
 - 市場均衡
- 第5週：市場取引の結果
 - 市場均衡の性質
 - 消費者余剰・生産者余剰・総余剰
 - 市場均衡の効率性
- 第6週：市場経済とマクロ経済のつながり
 - 市場経済の本質
 - 交換の利益
 - 分業の利益
 - 貨幣
 - 労働市場と失業
 - 資本と金融市場
 - 資産とは何か？

講義計画 2 / 4

- 第7週／第8週：
マクロ経済を把握する（1）

- 1国全体の生産活動をどうとらえるか？
 - 国民経済計算
 - 付加価値・GDP・生産関数
- 1国全体で生み出された付加価値はどこからどこへ引き渡されているか？
 - 産業連関表
- 1国全体の経済活動をどうとらえるか？
 - 経済循環図

- 第9週：
マクロ経済を把握する（2）

- 物価とは何か？
- 物価と経済変動はどう関係するか？

- 第10週：
マクロ経済を把握する（3）

- なぜ失業は発生するか？
 - 労働市場と失業
- 失業率と物価上昇率にはどのような関係があるか？

講義計画 3 / 4

- 第11週：
マクロ経済を把握する（4）

- 金融取引とマクロ経済はどのように関係するか？
 - 金融資産市場
 - 政府（国）の資金調達
- 利子率と物価にはどのような関係があるか？
 - 様々な利子率
 - リスクと利子率
 - 名目利子率と実質利子率
 - インフレ予想と名目利子率

- 第12週：
マクロ経済を把握する（5）

- 貨幣とは何か？（中央銀行と市中銀行がマクロ経済に果たす役割はどんなものか？）
 - 貨幣供給・貨幣乗数
 - 中央銀行の公開市場操作

- 第13週：
マクロ経済を把握する（6）

- 自国経済と世界経済とはどのようにつながっているか？
 - 国際貿易
 - 国際収支
 - 為替レート

講義計画 4 / 4

- 第 14 週：
長期のマクロ経済学の課題
 - 経済成長とは何か？
 - 長期の経済成長を決定する要因は何か？
 - マクロの生産関数
 - 総生産性（全要素生産性）
 - 技術進歩
- 秋学期に学ぶこと
 - 短期のマクロ経済
 - 景気変動
 - マクロ経済政策
金融政策・財政政策

本日の講義

「資源配分問題としての経済学」

[教科書範囲：序章、第1章第1節（1.1～1.5）]

- 希少な資源
 - 資源配分問題
 - 機会費用
- 意思決定
 - 2種類の意思決定
 - 「あれかこれか」の意思決定
便益、機会費用、純便益
 - 「どれだけか」の意思決定
限界原理（最適な意思決定）
- 相互作用：経済が働く仕組み
 - 取引は利益をもたらす
(市場取引の例で詳しくは第3週)
 - 市場は均衡にむかう
 - 社会目標を達成するため、資源はできるだけ効率的に用いるべきである
(市場取引の例で詳しくは第4週)

資源 (Economic Resources) とは何か？

資源 (Resource) 一般の定義: 「便益をもたらすもの」

経済的資源 (Economic Resource) の定義

「何か別の物を生産するために使えるもの」

「**財・サービス** および
財・サービスを生み出すその他**資産**」

- 財・サービス (the goods and services) :
 - 人々の欲求を満足させるもの
 - 人々に効用を与えるもの
- 資産: (将来の) 財・サービスの請求権

資源の希少性

Scarcity of Resources

「資源の存在量は限られていて、人々の欲求をいくらでも満たすことはできない」

「資源はすべての生産用途を満たすのに十分なだけ存在しない」

資源の希少性が意味すること

- － 「ある欲求をみたすことに資源を使うと別の欲求を満たすためにその資源を使うのをあきらめる必要がある」
- － 「希少な資源を社会がどのように管理するかという問題が発生する」

資源配分問題

「希少な資源を社会でどのように配分するかという問題」

社会の構成員のだれがどのように希少な資源を用いるかという問題

経済学の定義の一つ

「経済学とは資源配分問題を考える学問」

Paul Samuelson's definition of Economics:

"Economics is the study of how men and society choose with or without the use of money to employ scarce productive resources which could have alternative uses to produce various commodities over time and distribute them for consumption now and in the future amongst various people and groups of society"

機会費用

opportunity cost

「ある選択の本当の費用は、それをするためにあきらめる必要があることがらで測られる」

ある選択をするためにあきらめる必要があることがらを、その選択の機会費用という

機会費用の例

コンサートを聴きに行くことの機会費用

- コンサートチケットの代金
金銭的費用（金銭支出をともし費用）
- コンサートを聴きに行くのにかった時間
非金銭的費用（一見、金銭的支出がない費用）

「機会費用は金銭的費用と非金銭的費用の合計」

「非金銭的費用も金銭換算することは可能」

（もしコンサートを聴きに行っている時間に
アルバイトができたならばその時給×時間のお金）

機会費用で注意すべきこと

- 「非金銭的費用がとても重要になることは多い」

コンサートの例

- 「ある物を使用することの機会費用は、それを所有して使用しても、それを所有せずに借りて使用しても全く同じ」

ある決まったマンションの特定の部屋を使用することの機会費用

意思決定

「あれかこれか」の意思決定

- 二者択一の意思決定
- どれにするかの意思決定
- Which?

合理的意思決定

「純便益 $\equiv$ 便益 - 機会費用」がもっとも高い選択をするのが合理的意思決定

あれかこれかの意思決定の場合、プラスの純便益をもたらす選択肢を選ぶのが合理的意思決定

二者択一問題の例

「コンサートに行くか、行かないか」

コンサートに行く純便益 $\equiv$ コンサートに行く便益 $-$ コンサートに行く機会費用

コンサートに行かない純便益 $\equiv$ コンサートに行く機会費用 $-$ コンサートに行く便益

コンサートに行く純便益 $\equiv -$ コンサートに行かない純便益

「純便益がプラスの選択肢を選べば良い」

「純便益がプラスの選択肢を選べば良い」

どれにするかの意思決定

- 複数の選択肢のなかから選ぶ問題
- 離散型の選択問題（discrete choice）

例：一番好きな食べ物はなにか？

どれにするかの意思決定は、「あっちかこっちか」の意思決定を繰り返し使ったものと同じ

上記の例：食べ物のペアを選んでどちらが好きかを決める。そして選んだ食べ物と別の食べ物のペアを考えてどちらが好きかを選ぶ。その結果、常に選択される食べ物が一番好きな食べ物になる。

「どれくらいか」の意思決定

- 数量（度合い）を選ぶ
- 連続型の意思決定問題

合理的意思決定

「純便益が最大になる数量を選ぶこと」

その数量は「最適数量」という

最適数量を選ぶ方法

数量（ある活動の活動水準）に応じて便益と機会費用がある

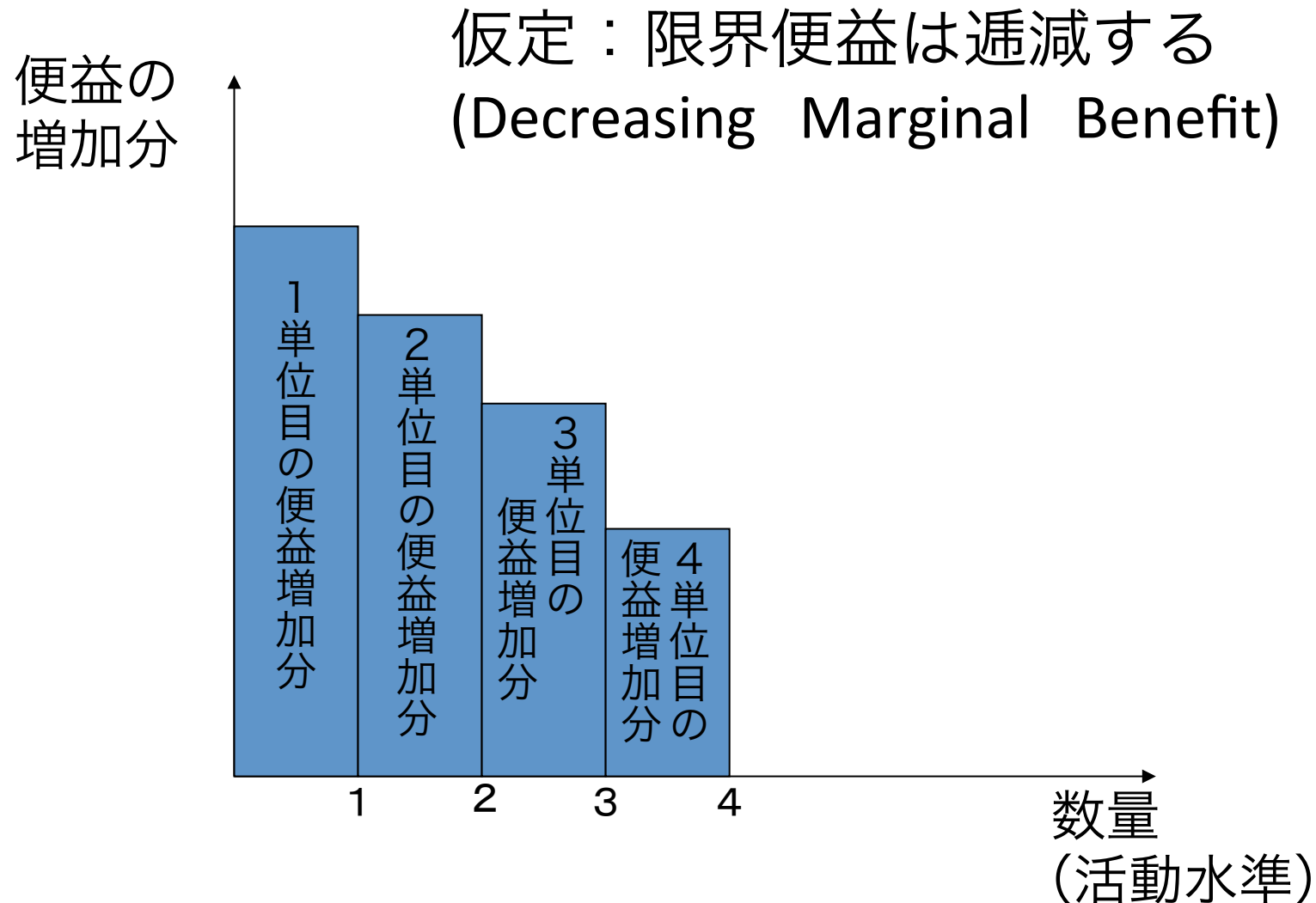
便益から機会費用を差し引くと、その数量（活動水準）のもとでの純便益が求まる

純便益を最大にする活動水準を選べばよい

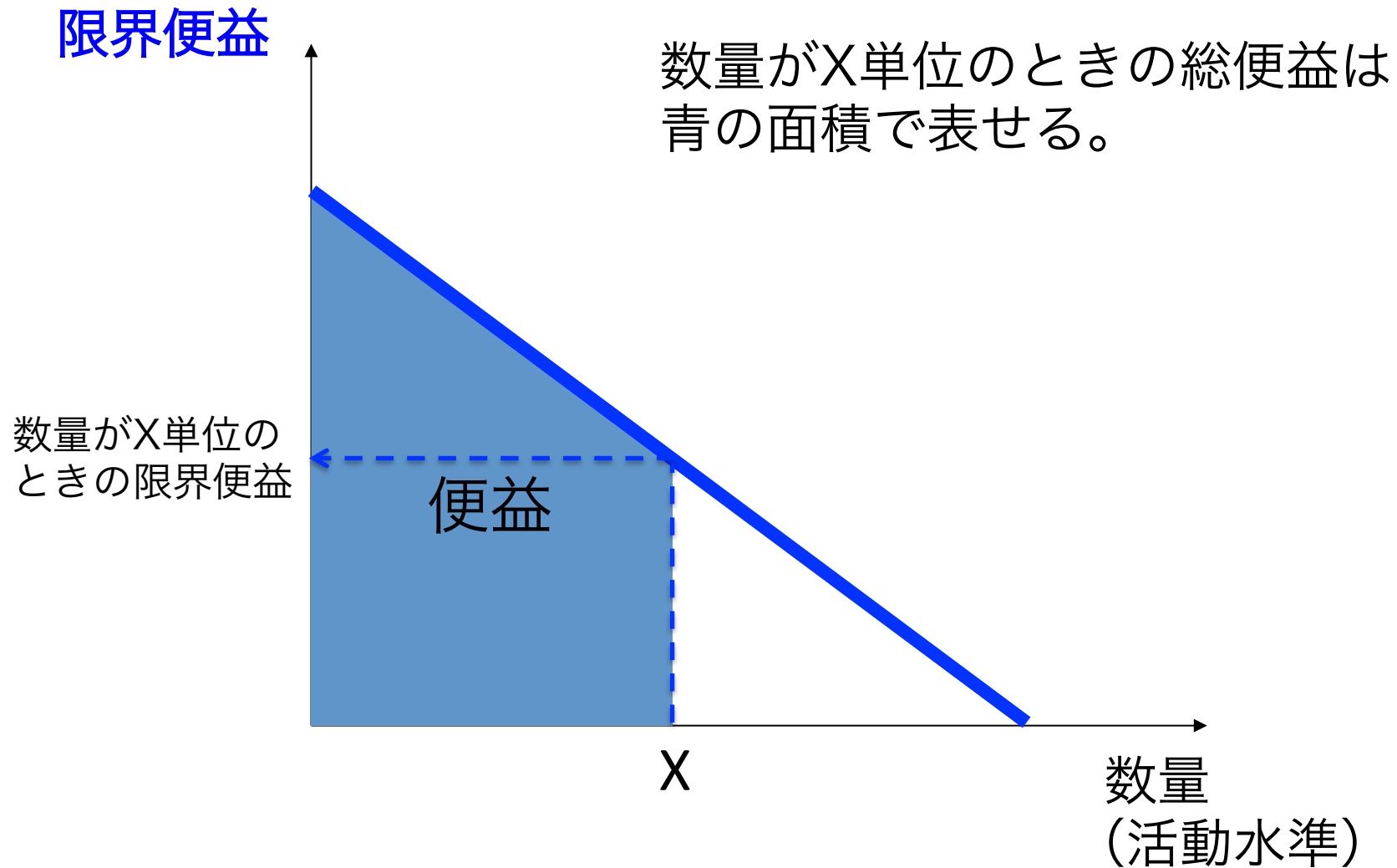
- あともう1単位活動水準を追加することで発生する便益の増加分（ $\equiv$ 限界便益）が、それによって発生する費用の増加分（ $\equiv$ 限界費用）より大きいならばその活動水準を増やすと純便益が増える
- 限界便益が限界費用以上であるような最大の活動水準が純便益を最大化する活動水準、つまり最適活動水準である

純便益最大化の限界原理

数量（活動水準）に応じた便益



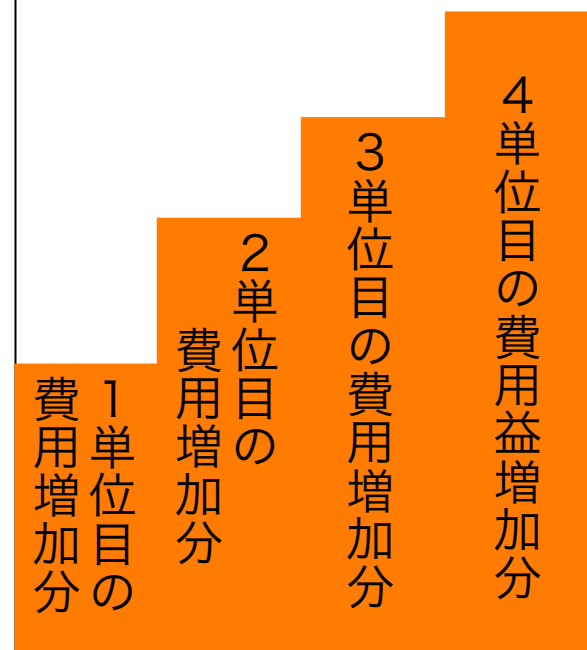
数量（活動水準）に応じた便益



数量（活動水準）に応じた費用

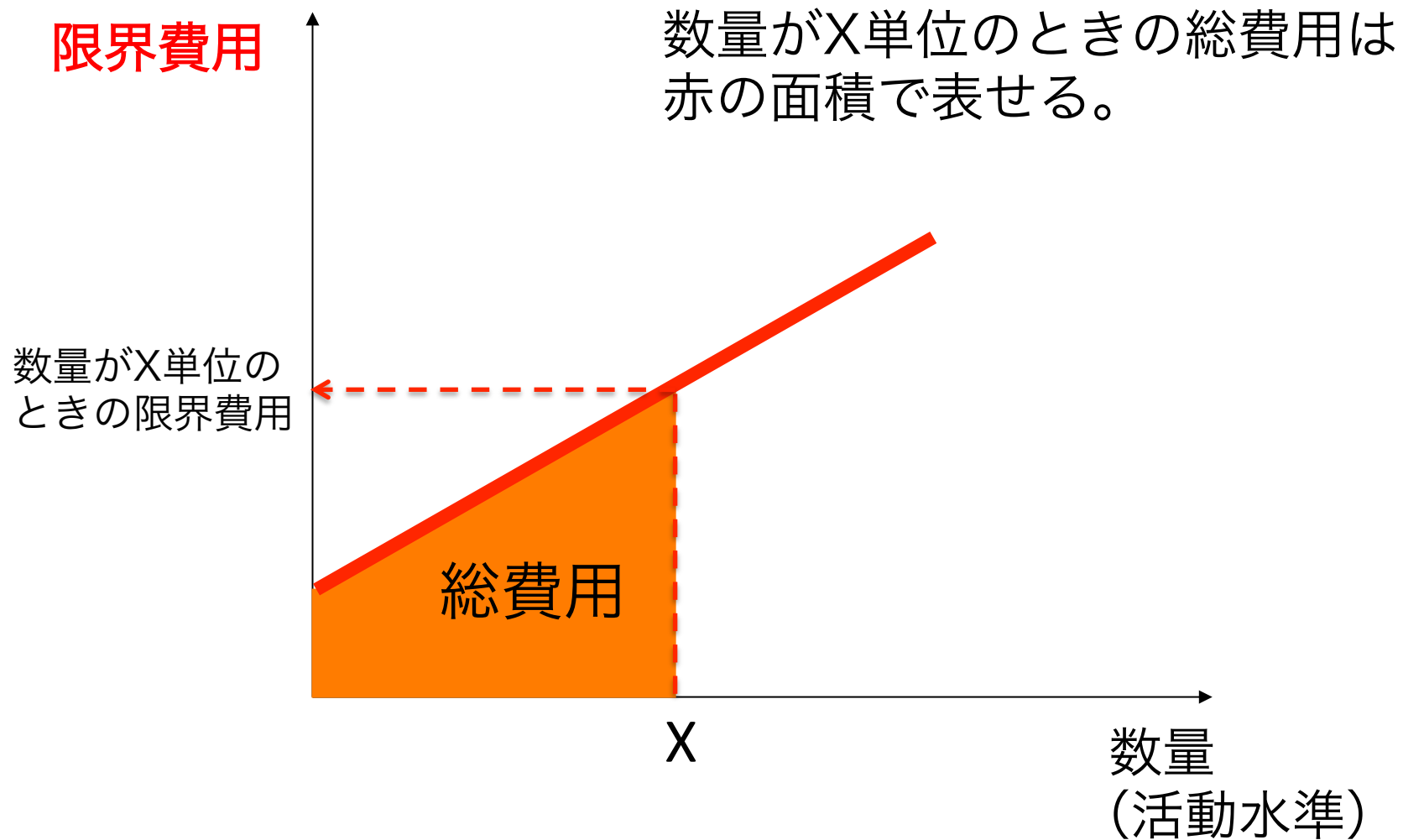
費用の
増加分

仮定：限界費用は逓増する
(increasing Marginal Cost)



数量
(活動水準)

数量（活動水準）に応じた費用

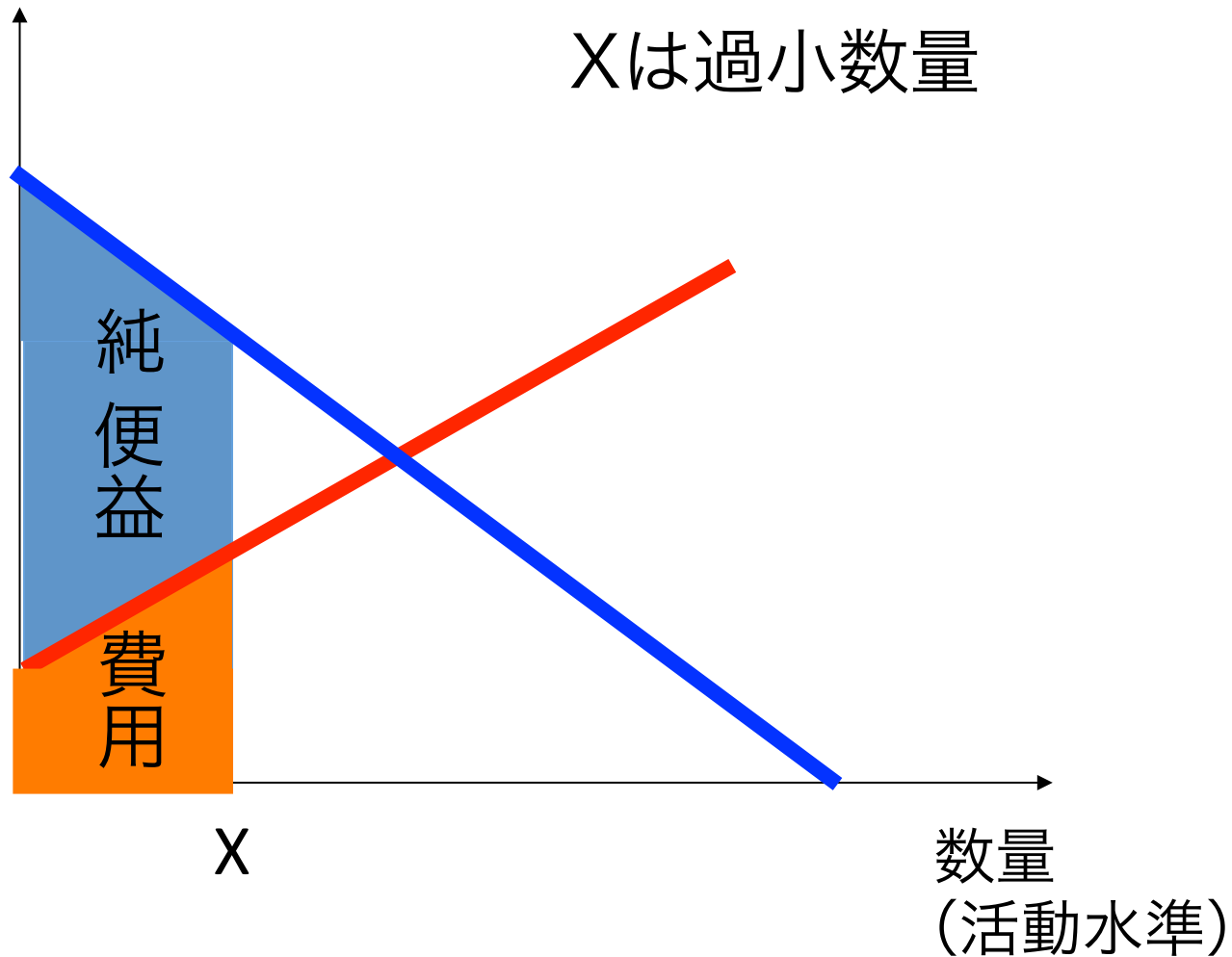


数量に応じた純便益

限界便益

限界費用

Xは過小数量

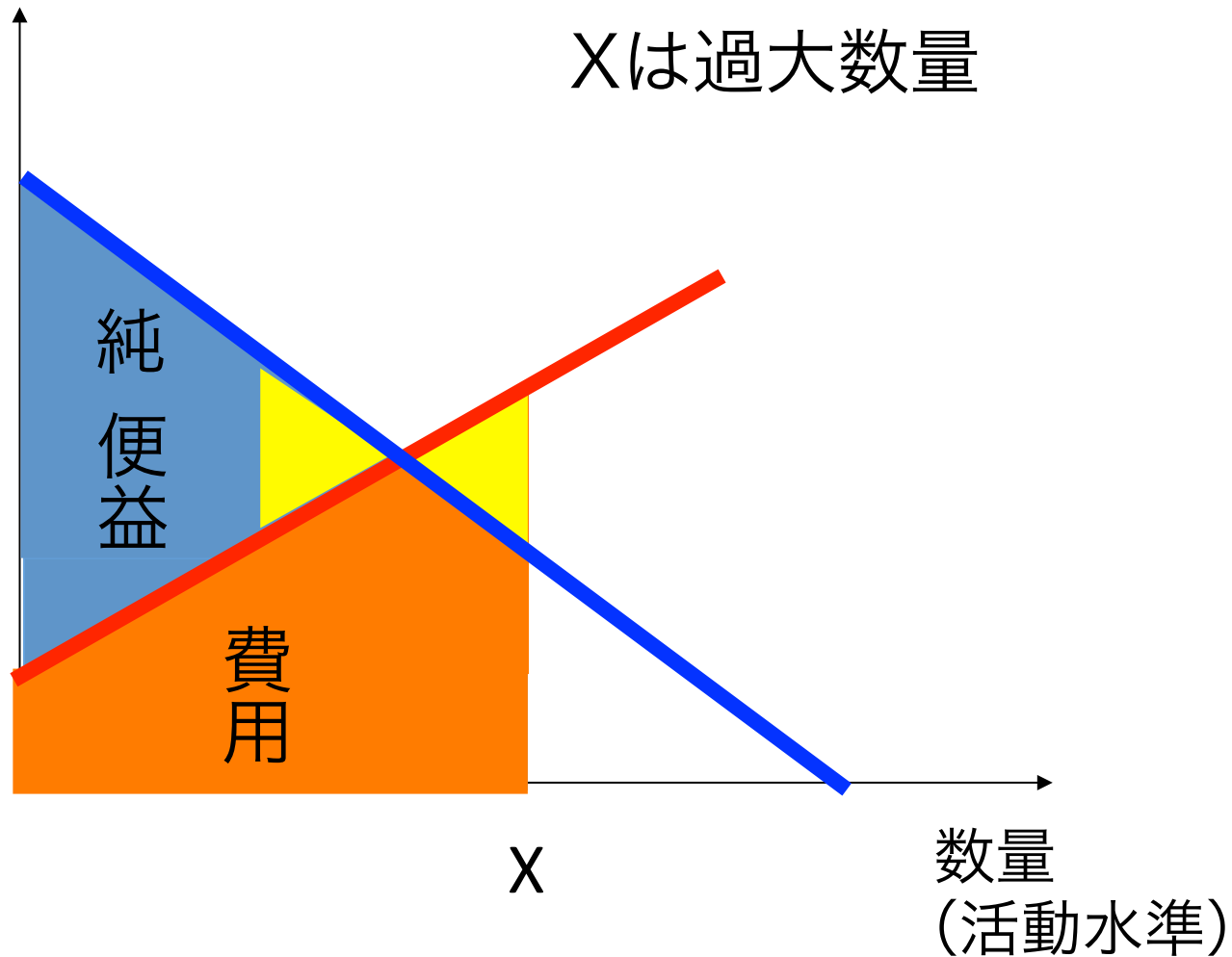


数量に応じた純便益

限界便益

限界費用

Xは過大数量

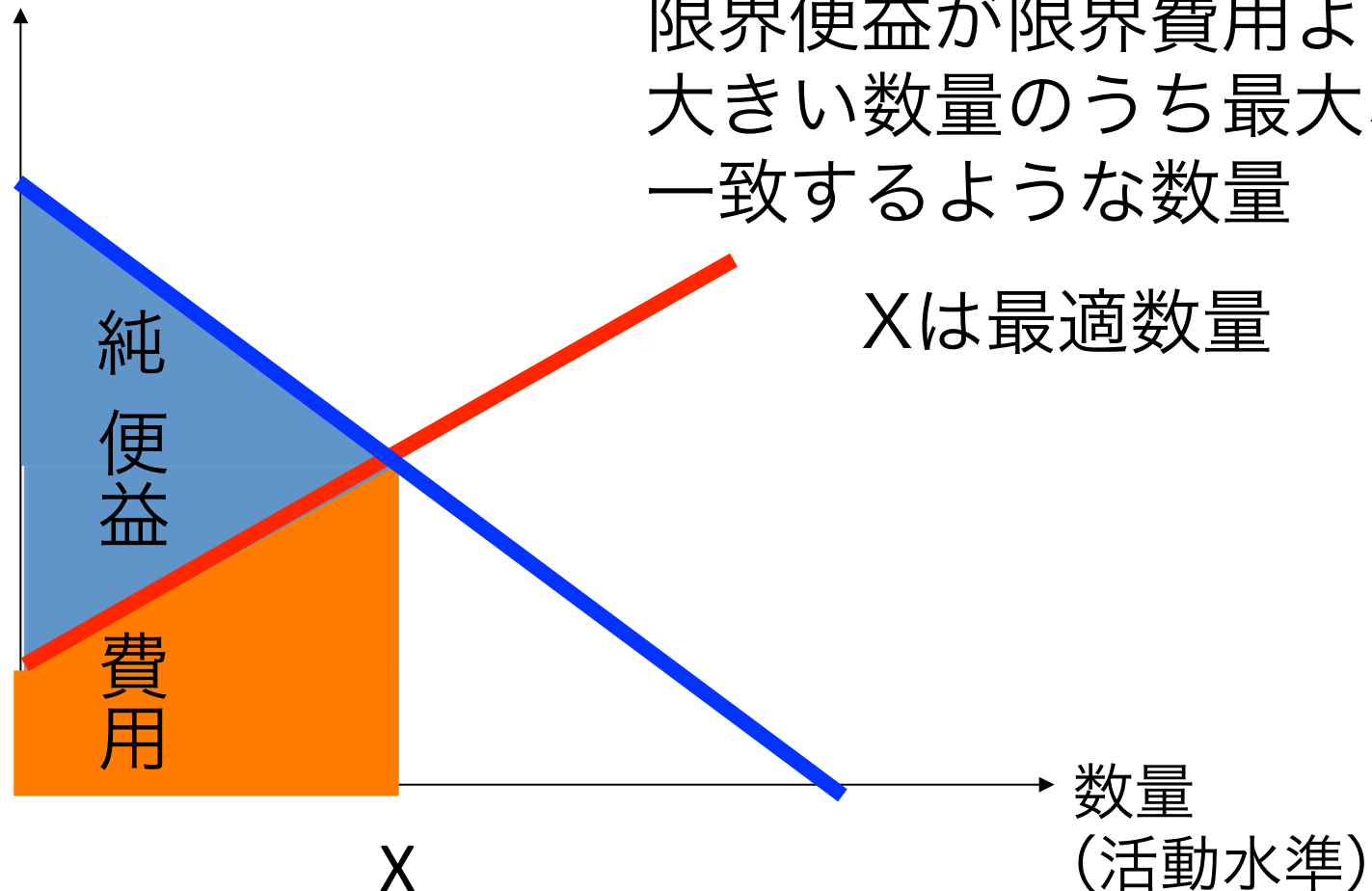


純便益最大化の限界原理

純便益を最大化する数量は 限界便益と限界費用が
一致するような数量

限界便益が限界費用より
大きい数量のうち最大なも
一致するような数量

限界便益
限界費用



相互作用

- 自分の意思決定はかかわりのある他者の意思決定に依存する
- 取引は取引当事者に利益をもたらす
- 市場は均衡にむかう
- 社会的目標を達成するためには資源を効率的に用いる必要がある
- 市場は効率を達成することが多い
- 市場が効率を達成しないとき、政府の介入が効率性の改善をもたらす可能性がある